霜月（十一月）

二十四節気・七十二候

日本の季節を表す言葉です。（＊は七十二候の一部）

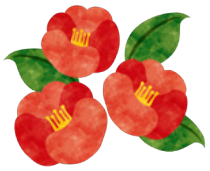
十一月七日ごろ　**立冬**（こよみの上で、冬が始まる日）

十一月七日ごろ　＊**山茶始開**（つばきの花が開き始める）

十一月十二日ごろ　＊**地始凍**（地面がこおり始める）

十一月二十二日ごろ　**小雪**（だんだん寒くなり、雨が雪に変わるころ）

十一月二十七日ごろ　＊**朔風払葉**（北風が木の葉をはらう）



日本の言の葉

〈百人一首の短歌〉

ちはやぶる　神代も聞かず　竜田川
からくれないに　水くくるとは

在原業平

【意味】神話の時代でさえも聞いたことがない。もみじが竜田川の水を真っ赤なしぼり染めにするとは。

田子の浦に　うち出でてみれば　白妙の
富士の高嶺に　雪は降りつつ

山部赤人

【意味】田子の浦の海辺に出てながめてみると、真っ白な富士山の頂上に雪が降り続いているよ。

・上の短歌を、声に出して読みましょう。
・秋や冬の季節の短歌（五・七・五・七・七）を作ってみましょう。

季節の言の葉こよみプリント【十一月】

なまえ